

私もその後同地を訪ねる機会があって、はえている現場を見ることができた。それは大きな岩の壁面 2 m 四方ぐらいびっしりはえていてみごとなものであった。普通の形のヌリトラノオとは違うところがいろいろある。すなわち全体が軟くなよなよしてイヌチャセンシダのような感じがし、中軸はもろく折れやすい。ツルデンダのように臥せる気味があり、葉の先端がややつる状に延びており、長いのは葉の長さ 30 cm を越すものがある。葉身の中軸に数個の無性芽（ヌリトラノオでは先端部にできるが）をつける。一見イヌチャセンシダとヌリトラノオの雑種かと思われる形態をしているが、胞子は全く正常で雑種ではないらしい。結局ヌリトラノオの変異範囲にはいるものではあるが、いろいろの点で本来のヌリトラノオと違っているので変種として取り扱うことにする。和名は産地の天竜川にちなんでテンリュウヌリトラノオとする。

(東京教育大学理学部植物学教室)

*Asplenium normale* D. Don, Prodr. Fl. Nepal. 7, 1825.

var. *shimurae* H. Ito, var. nov.

Lamina laxiori, rhachidi fragili 1-4 proliferi, apice elongati a var. *normale* differt, sed sporis normalibus.

Hab.: Kozuma, Sakuma, Sizuoka Pref. (leg. Y. Shimura, Oct. 23, 1970—Holotypus in TI; H. Ito).

○小笠原諸島産セン類 2 種の追加 (齊藤亀三) Kamezo SAITO: Two mosses additional to the bryoflora of the Bonin Islands

小笠原諸島のセン・タイ類フロラについては最近詳しい調査がなされ、そのフロラの全容がほぼ明らかにされた (Inoue and Iwatsuki 1969, Inoue 1970, Inoue and Iwatsuki 1970)。本年の 1 月より 2 月にかけて、当大学の伊藤洋教授ら一行が、小笠原諸島のうち父島と母島を訪れ、おもにシダ類の調査を行なった。その時の採集品の中に、小笠原諸島のコケフロラに追加すべき次のセン類 2 種が見出されたのでここに報告する。

1. *Pleurizium subulatum* (Hedw.) Rabenh. (ホソバキンチャクゴケ)。父島の三日月山山麓 (約 100 m) のくぼ地の腐木上に生育していた (採・芹沢—Saito 10535)。

2. *Hymenostomum latifolium* Nog. 上述のホソバキンチャクゴケと混生していたもので、さくは既にこわれて落ちており、比較的長い柄だけが残っていた。胞子体の形質はわからなかったが 1. 葉縁は扁平で内曲しない、2. 葉尖は漸鋭先形をなすなどの点で、他の *Weissia* 属、*Hymenostomum* 属の種より区別された (採・芹沢—Saito 10535)。

終りに、採集し標本をご恵与くださった方々に感謝いたします。

(東京教育大学理学部植物学教室)